



実綱ゆかりの 新開桜

旧富岡町は、戦国時代には600余年からおよそ200年にわたり新開氏一族により統治されてきました。讃岐白峰の戦いで、北朝の侍大将として活躍した新開遠江守真行が阿波新開の祖になりま



富岡町
喜多 啓吉さん

新開氏には治績六業といわれる功績があり、ひとつに牛岐最後の城主・実綱の天正年中の頃の新開桜の移植があげられます。淡いピンクの花びら、濃い紅のガク、若草色の長い花柄の桜花は、旧正月に花咲く元旦桜とも称されます。祖新開荒次郎実重（源平盛衰記に登場）ゆかりの武蔵国から実綱

町の船越家にて栄華を忍ばせるのみとなりました。たくましい幹から枝が張り出し、満開時には可憐な桜花が咲き誇ります。

一領具足で民を戦いに駆り出し四国を手中にし、滅んだ長宗我部元親。農業や教育の振興・水利事業・社寺建立・港湾整備等の業をなし、戦国の世にありながら平和だったこの地の民に、精神的な安らぎを与えようと新開桜を手の

ひらに乗せた新開遠江守実綱。下克上の世にあり手段を選ばぬ元親に謀殺された武将だとしても、新開桜を

愛でた実綱を誇りに思います。可憐な桜花を仰ぎ見てその優しい心を思う時、弥生の優しい風に桜花が揺らぎ、一陣の爽やかな風が体を吹き抜けていきます。

次は、新野町の黒川喜美恵さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会選

山西 成彬
病む友は己が余命を語りたりわれ晩年を生きているかも

岩浅タミ子
ベゴニアの原種と歌友の持ち呉れし秋海棠は形見となれり

五島 秀子
国道にLED眩しきトレーラー深海を行く怪魚を思う

原 美智子
蝉しぐれ父のぬくもり知らぬ掌に線香ささぐ終戦記念日

西崎まき子
隅を刈る吾の回りを銀蜻蛉とぶは稲刈り見に来し夫か

岡久 利永
幼き日まず仏壇にと言いし祖母祖母も父母も今そこに在る

矢野 道子
トンネルを抜ければすずろ白百合の揺るる姿に迎へられたり

俳句

阿南市俳句連合会選

多田紀久代
北大へ意志貫きし入学す

瀨藤 豊子
子の家に移るちちはは春隣

大西 裕子
春光や水面をあがる四つ手網

吉田 當代
八十路坂笑みを宝に桃の花

久田 美恵
のど飴の口に解けたる春の雪

平野 貞子
「お大事に」と黄砂降る夜を別れ来し

数藤 耕風
余生まだあるを信じて苗木買う

近藤ヤス子
ピカピカの自転車届き春を待つ

田中 千香
梅の香にさそわれ行けば友に友

久米 浩一
春めいて歩幅の伸びる散歩かな

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

原 公美子
口笛の自転車が行く新学期

野村 敏子
子や孫に踊らされてる至福の日

持木 寿栄
やる気での掃除の時はクラシック

橋本 征介
ここだけの話にしては高い声

岡本 福笑
多数決延長戦のないルール